



世帯数	962 戸
人口	2,433 人
男	1,215 人
女	1,218 人

### 一年生になったら

内田保育園を卒園し小学校へ進学する園児の皆さんから、新年度の抱負を教えてくださいました。真剣な決意表明をご覧ください。

※頭が良くなりたいたいから、宿題をがんばりたい。

※算数の勉強と、楽しみな運動会をがんばりたい。

※算数の勉強をがんばってテストで100点をとりたいたい。

※お兄ちゃんみたいに、テストで100点をとりたいたい。

※勉強をがんばって、頭の良一年生になりたい。

※新しいお友だちと色々なことをしてたのしみたいたい。

※新しい友だちをつくっていろんなことをして遊びたい。

※楽器を演奏してみたり、勉強をがんばりたい。

※算数をがんばって勉強して、テストで100点をとりたいたい。

※やったことがないから、野球をやってみたい。

ちはる

ほのか

けいか

あつき

ももか

はるひ

そう

きよたか

さわ

よした

## 人権視察研修 浅川兄弟資料館へ

二月二十日人権啓発推進協議会及び内田公民館企画の研修旅行で北杜市の浅川兄弟資料館とサントリーの白州工場を訪ねました。浅川兄弟に関する知識もあまり持ち合わせておらず、白磁の人の代名詞位としか知りませんでした。

浅川兄弟資料館に到着した時の印象は外観も特徴があり、目立ちました。内部は木が大変多く使われ開放的でありました。又、地域センターや図書スペースも設置され、

※頭が良くなりたいたいから、勉強をがんばりたい。

※勉強をがんばって、頭が良くなりたいたい。

※新しい友だちをたくさんつくってあそびたい。

※たくさん勉強をして、実験をしてみたい。

※勉強をがんばって、テストで100点をとりたいたい。

※足が速くなりたいたいから、運動会をがんばりたい。

みちあ

まお

よう

なのは

みお

みお

ゆつき

子供やお母さん達が一生懸命になって勉強や読書をしており、非常にうらやましい光景に見えました。本題ですが二階の教室で学芸員の澤谷さんから浅川兄弟の略歴や活動内容を教えていただきました。兄の伯教は朝鮮古陶磁研究者で朝鮮半島の朝鮮陶磁器を七百箇所以上調査し、釜山窯と対州窯にまとめて発表したそうです。

自ら集めた朝鮮古陶の陶片三十箱余り、工芸品三千点、朝鮮民族美術館収集資料を整理して、朝鮮半島の関連機関に収蔵を申し出て納め、日本に帰国しました。

弟の巧も兄の活動に感化され、後を追って朝鮮半島に渡り、朝鮮の民芸・陶芸の研究紹介をしました。その傍ら、



朝鮮半島で無計画に伐採され災害の起きた山林に、朝鮮の人々と植林事業を行い、整備に全力で取り組んだそうです。座学の後、たくさん展示されている資料の説明を受けました。当時の朝鮮の人々の様子をジオラマを使い非常に見やすい展示で感動しました。直近で私達が訪れる前に、弟の巧が韓国から表彰されたことを教えていただきました。「奇跡の韓国をつくった世界の英雄七十人」の一人に選ばれ、韓国から表彰されたそうです。これは韓国の解放七十年を記念し、「朝鮮日報」と「国立韓国歴史博物館」の共催で行われたものだそうです。現物の表彰状は思いの外こじんまりとした額に収められていました。

今日の両国間の状況の中でもこの表彰を受けられたことは巧の実績がいかに偉大であったかが偲ばれます。本当に有意義な一日でした。

一町会 前澤 宏

# 人権学習講座に参加して

内田地区人権学習講座が二月二十七日に、内田公民館で開催されました。今年度は曹洞宗松声山龍門寺の住職を務められる傍ら、松本短期大学および松本市医師会看護学校の非常勤講師も務められている、佐々木一生（ささきかずお）先生をお招きし「命を思う」と題して、講演をいただきました。

人権学習と聞くと、難しい内容の話かと思ってしまうのですが、ご自分の名前を読み方についてからお話が始まり、最近の高校入試で出題された、四文字熟語のユニークな解答を例にして、我々の子供時代と最近の人と人の関わり方の違いについて話されるなど、非常に解り易く楽しい内容でした。講演の中で、特に心に残ったのは、出産時に赤ちゃんが産道を通ってくる時は手を握っており、産まれた瞬間に手を開く動作の理由についてのお話です。母親の陣痛は赤ちゃんにも伝わり、母親の苦しみを早く終わらせようと、

産まれる行動を始め、爪で産道を傷つけないようにと手を握りしめており、親を思っているのだそうです。また、産まれた瞬間に手を開くのは、愛と命（心）をこの世の中に届けようとする動作のように見られており、人間は生まれながらに、人を思い愛する気持ちを持っているとお聞きし、人間愛について考えることができました。

最後に「人」の漢字を取り上げ、ひとりが支え、もうひとりがかばっている姿を表しており、この気持ちが人権を保っていますと、結ばれました。一時間半の講演会は、笑いを交えながら、人と人が助け合い、支え合うことの大切さを改めて学ぶ、良い機会となりました。



五町会 横山 周次

## おわび.....

前回の「はちぶせ」一月号において、桃昌寺の年越しそばと二年参りの記事の、おせち料理の写真が誤っておりまして、正しい写真を再掲し、訂正いたします。

関係者の皆様に、深くお詫びいたします。誠に申し訳ありませんでした。



## つれづれ編集記

「この家の庭素敵だなー。」  
まだ朝は少し肌寒いこの季節、白い息を吐きながらそんなことを考えて走る。

走り始めてから半年以上が過ぎた。最初はダイエットのためだったが、徐々に「走りたいから」がもう一つの目的となった。それ程走ることは楽しい。いや、苦しいが走り終わったとき

# 「信州・まつもと鍋」料理教室に参加して

「信州・まつもと鍋」料理教室が、二月二十七日（土）に行われました。松本大学の学生さん三名、JA松本ハイランド、松本市農政課の方々が見え、総勢十七名で作り方を教えていただきました。



まつもと鍋

「まつもと鍋」の話は、子どもの学校からの配布物で見聞きはしていましたが、実際にうちの鍋とは何が違うのか興味津々でした。食材は松本産の物を使います。「まつもと鍋」に必ず使うものは、松本一本ネギ・松本の水・ふじりんごだそうです。他は、豚肉・鶏肉・白菜・ごぼう・人参・えのき。

しめじ・長芋を使い、根菜類はよく洗って皮ごと使います。鶏肉・ネギを炒めて旨味をアップ、たくさんの野菜を入れて煮ます。土鍋のふたが閉まらないほどの野菜が入りましたが、火が通るとカサが減りました。鍋はポン酢とりんごのすりおろしを入れたつけダレでいただきます。ふじりんご？と思いつつぱさりと香りがとてもよく合います。メの雑炊には、長芋のすりおろしをかけていただきます。

たつぷり野菜がとれるまつもと鍋、家でもまた作ってみたいと思います。学生さんと学校の様子や鍋の開発エピソード、ハイランドや農政課、他の参加者の方々とは旬の野菜やおいしい食べ方、他地区での料理教室の話などいろいろ聞くことができ、とても楽しい二時間半でした。

二町会 中寫 佳代子

の爽快感がなんともいえないのだ。普段、車では通ったことのない知らない道も躊躇なく進む。「ここが〇町会なのか」「この道はあそこにつながるのか」：内田の住人となつてから十年経つ今、初めて知ることがたくさんある。

夏は日差しが強くなる前の早朝に走る。冬はタイツにネックウォーマー、耳あてと完全防寒で走る。凍てつくような気温の中でも、数キロ走ればほか

ほかだ。車だと感じないわずかな坂道や、冷たい風も身体全体で受け止めながらひたすら前進する。音楽などは聴かない。思考がクリアになつていくのを感じながら走る。時間はかかるが、走り始めに随分先に思ったゴール地点に到達したときが嬉しい。

これからも内田をより身近に感じながら走り続けるだろう。：しかしダイエットのゴールはまだまだ先のようにだ。七町会 二條 めぐみ